

I

次の文章を読んで、後の問い(問1～13)に答えよ。(配点 75)

和本とは

明治以降、ほとんどの学問の基礎が西洋に根ざすようになると、

I

に書物というもの

の扱いも、西洋のそれか、あるいは近代の活版印刷のそれによって事足りりとするようになり、
 II に日本の古典を考える上での根底ともなる「和本」に関する興味は狭まる一方となった。英語は読めても、変体仮名や漢字の草書体は読む必要はないという読書人が、既に当たり前となった今日、まして大学生のほとんどが平成生まれとなった以上、「和本」という言葉自体が、もはや何がしかの説明をつけないと通用しなくなってしまったのは当然かもしれない。

中国の「唐本」、韓国の「朝鮮本(韓本)」、西洋諸国の「洋書」に並ぶ名称として、日本の「和本」がある。それも古くは奈良朝から近くは十九世紀末辺りを境に、近代活版印刷の本にとって代られるまで、いわゆる手漉^てきの和紙を用い、木版印刷の技法を以て出版された「板本」と、手書きのままの「写本」と、大まかには二通りの姿で営々^Aと作られ続けた。明治に入っても十年代まではむしろ和本の姿をとるものが普通であり、大方、日清戦争前後(明治二十七～一八九四)―二十八年)から、近代活版印刷本との、はっきりした交代が見られる。

近代以前の文化インフラ

書物に限らず、姿や形と内容が互いに規制し影響しあうのは当然のことで、その意味では文化の全般的な近代化は、書物が文化伝播^{でんぱ}の中心的媒体である限り、このような交代をまって初めて現実化したものと考えるべきかとも思う。

① ということは、近代以前の日本を考える上においては、最も基本的な文化のインフラとも言うべきものが「和本」^Bなのである。

その「和本」についての基本的な理解が、いわゆる本好きの間でもほとんど共有され難くなっている。世界に冠たる神保町の二百軒を越すという古書店街をブラついてみても、和本を扱う量の激減ぶりは一目瞭然、和本のみの専門店と言えば大屋書房一軒のみ。漢籍専門の山本書店も壁面の半分は活版本(業界では普通に「洋本」という)。稀観書^{きかんしょ}に名だたる(初めて一点で一億を越す値付けをした本屋さん)玉英堂も二階だけ、大老舗の一誠堂でさえ、二階のほんのイチグウ^aを占めるのみ、といったありさまは、そのまま絶滅危惧種に登録されて然るべきであろう。

要するに平成の今日、「和本」に関わるのは何とかそれを飯の種にする業者か、変り者のオタクか、古典研究者しかいないのが実情としても、その業者は前述の通り寥々^{りやうりやう}然、オタクは初めから少ないからこそその存在、辛うじて研究者の世界だけにとみると、これまた絶対量の少なさをゆえの価格のコウトウ^bに煽^{あお}られて、ただ天を仰ぐのみ。ひたすら活字の翻印本に頼るか、少しましでも電子情報頼みでモニター上に影を追いかけるだけで能事終われりとせざるを得ないありさま、まさしくそのメイウン^cはここに尽き果てんとしているのである。

江戸観の変転

近年、歳相応に講演の要請もあるが、「大勢五転^d」という演題を掲げることが多い。明治以来の

近代人の江戸観には五度の変転が認められるのではないかとするものだが、実はこれこそが「いま、なぜ和本か」という問いへの直接の答えとなるはずと思うので略述する。五という数は大方明治以降の年号の数に拠るもので、安直といえは甚だ安直だが御勘弁願いたい。

(一)は明治期。端的に言えば、日本の近代化は江戸をいかに払い棄てるかにあり、この江戸否定の命題は以降、日本近代の基調音となり続ける。ただし、それを考えた当人は物理的に江戸生まれなので(福沢諭吉・坪内逍遙・明治の元勳みな然り)、いわば頭までどっぷりの江戸人が自分の中の江戸を否定するという強烈なアの時代であった。(二)は大正期。江戸否定にも若干の余裕が生じ、趣味的な江戸理解はカンゲイされ始める(泉鏡花・永井荷風・谷崎潤一郎)。(三)は昭和戦前。六十歳以下の国民がみな近代の生まれで、ようやく江戸を客観視できるようになり、江戸は学問の対象となった(頼原退蔵・山口剛など)。そして(四)は昭和戦後。実はここからが問題なのだが、戦後民主主義の華やかな開幕は、人々の脳裡から江戸回帰の危惧を消し去り、ある種の江戸評価・江戸理解が始まる。それは江戸の中に近代の萌芽を探し、そのみを評価するという、青臭いイの出發である。ピンセットとルーペで虱つぶしに、まずは洋学者の面々、次に井原西鶴(寛永十九年(一六四二)―元禄六年(一六九三))のリアリズム・近松門左衛門(承応二年(一六五三)―享保九年(一七二四))のヒューマニズム、そして庶民の文学・町人の文化の言挙げは、例えば中学や高校、ひいては大学でも教科書の江戸の部を開けば一目瞭然であり、そのまま現代に至るといってもほとんど過言ではない。

甲

そしてようやく(五)の平成となる。思えば戦後の四十年間は世界的にもいわゆる「近代」のセイヤキユウな進展の結果、諸々の欠陥をロテイし、その反省にも迫られることになり、気の早い向きは早々と近代の終焉を口にし、ポスト近代の方途を探ることが説かれ始めた。その結果江戸観にも注目すべき展開が生じる。つまり「近代主義的江戸理解」を転じて、「江戸に即した江戸理解」の必要性に目覚めたのである。これまでのように、近代の側から近代に都合のよい部分だけを探り上げるのではなく、できるだけ江戸人の目で江戸を眺め、それが近代にとって都合がよからうが悪からうが、まずは江戸の総体を過不足なく眺めてみようとする姿勢の重要性に気づいたものといえよからう。それは江戸を近代側から見ると共に、もう一つの目を、いわば複眼的な江戸理解の目をもつことを意味する。

平成に入るまでの近代は、いわば近代の青年期だったのではなからうか。他を省みて自分に都合のよい部分だけを評価するという姿勢は、まさしく青年期特有の単眼的自分勝手な精神構造そのものであり、平成を迎えた今、近代はようやく成熟期にさしかかって、複眼的・立体的な江戸理解に目覚めたものと思う。

乙

一九六〇年代以降、何度か江戸ブームらしきものはあった。それはおおよそ、江戸と近代との同質性を探るところから発想されていたように思う。しかし、しよせん同質性を言い立てている限り、いつまでたっても青臭い近代主義の克服は不可能ではないだろうか。本当のところ、江戸は近代と

は違う。そのそれぞれの本質的な違いを正當に評価できて初めて、正しい意味での近代の成熟が予定されるはずであり、その鍵の一つは、まさしく「和本」というものの正確な理解にあるはずである。

ここでようやく始めに戻ることになる。「和本」は江戸理解のインフラそのものなのである。「和本」は江戸の人間の生活文化のありとあらゆる領域にわたって存在する。だからこそ、江戸を江戸に即して理解するには、今のところ、「和本」を用いるのが最も効果的であると断言できる。

近代人は書物といえはその内容のみを取り出して考えがちだが、それこそ近代主義的早とちりといえよう。書物は「物」なのである。「和本」はまぎれもない江戸時代そのものを示す遺物である。例えばここに『奥の細道』の江戸時代の板本（元禄十五年（一七〇二）刊）と、その岩波文庫本と、「古典大系」の註^{ちゅう}積本^{せきほん}があるでしょう。どれも本文は一緒だが、板本は元禄十五年そのものであり、岩波文庫本は昭和三十七年、大系本は昭和三十四年のものである。そして板本を掌に乗せた時、まぎれもなく元禄十五年が掌の上に在る。タイム・マシンはなくとも、江戸が、元禄十五年が掌の上に来てくれている。その元禄十五年の「和本」から得られるだけの情報を、手触りまで含めてすべて得尽した時、複眼的な江戸理解に初めて近づいたと考えられないだろうか。活字本や電子情報^Fは掌の上の江戸の感触を全く伝えてはくれない。ただし活字本や電子情報を全く無視することも現在ではとうてい無理なことであろう。その場合も、まずは手触りまで含めた「和本」のすべてを味わう術を身につけた上で、電子情報に向かうべきであることなのである。

（中野 三敏「和本のすすめ―江戸を読み解くために」）

（注） インフラ：インフラストラクチャーの略。土台、基盤、下部構造の意。

※ 問題作成にあたり、本文を一部改変した。

問1 傍線部 a～f のカタカナを漢字に直せ。解答は解答用紙の所定欄に読みやすいはっきりした楷書体で書くこと。解答番号は ～ 。

a イチグウ

b コウトウ

c メイウン

d カンゲイ

e セイキユウ

f ロテイ

問2

空欄

・

に入るとして最も適当なものを、次の①～⑦のうちからそれぞれ一つ選べ。解答番号は ・ 。

① 必然的

② 心理的

③ 消極的

④ 一時的

① 逆説的

② 本能的

③ 強制的

④ 多面的

問3

空欄

一つ選べ。解答番号は 。

に入るものとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちから

① 自己愛的江戸肯定

② 自己嫌悪的江戸肯定

③ 非人道的江戸肯定

④ 現実逃避的江戸否定

⑤ 近親憎悪的江戸否定

⑥ 時代錯誤的江戸否定

問4 空欄

イ

に入るものとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちから

一つ選べ。解答番号は 10。

- ① 実証的江戸理解
- ② 学術的江戸理解
- ③ 懐古的江戸理解
- ④ 中央集権的江戸理解
- ⑤ 近代主義的江戸理解
- ⑥ 民主主義的江戸理解

問5

傍線部A「営々と」の意味として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。解

答番号は 11。

- ① こそこそと
- ② どうどうと
- ③ いそいそと
- ④ こつこつと
- ⑤ あっさりと
- ⑥ だらだらと

問6

傍線部B「『和本』」の説明として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。解

答番号は 12。

- ① 現代でも、読書人であれば変体仮名や漢字の草書体を読む必要があるため、「和本」の需要は高まっている。
- ② 「和本」は昭和十年代の活版印刷による書物にとって代わられたため、現代では通用しない用語になってしまった。
- ③ 「和本」という名称は、中国の旧唐書、朝鮮半島の朝鮮本、西洋諸国の洋書に並ぶ名称として用いられている。
- ④ 「和本」は奈良時代から作られており、手漉きの和紙に書写する以前の木簡や土器に記された記録も含めて「和本」という。
- ⑤ 「和本」には手漉きの和紙を用い、手で書き写す写本と、木版印刷の技法で出版する板本の二種類がある。
- ⑥ 近代活版印刷本が登場してからは、手漉きの和紙に変体仮名や漢字の草書体で記される「和本」が書物の基本的形態となった。

問7 傍線部C「ひたすら活字の翻印本に頼るか、少しまでも電子情報頼みでモニター上に影を追い求めるだけ」と著者が嘆く理由として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は 13。

- ① 活字本や電子情報は西洋から導入された近代主義的枠組みの産物であるため、日本独自の文化とはかけ離れているから。
- ② 活字本や電子情報は和本のもつ江戸時代の感触を全く伝えてくれず、江戸時代そのものを江戸に即して理解するのが難しいから。
- ③ 活字本や電子情報は和本のもつ江戸時代の感触を全く伝えてくれないが、情報化が進む現代においてはそれらを利用するしかないから。
- ④ 活字本や電子情報は和本のもつ江戸時代の感触を全く伝えてくれないが、和本が入手不能となった現代においては仕方がないから。
- ⑤ 和本に書かれた江戸時代の文字は、活字本ではまったく異なる表記になるとともに、そこに記された内容も一部変化するから。
- ⑥ 和本に書かれた江戸時代の文字は、スクリーンでは読み取りにくく、モニターでは影のようには映らないから。

問8 傍線部D「明治以来の近代人の江戸観」にあてはまる最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は 14。

- ① 明治期に福沢諭吉らによって否定された江戸文化は、その後の時代に再評価されることがないまま、現代を迎えるに至った。
- ② 昭和戦前には、六十歳以下の国民が江戸文化を知らない世代となってしまう、文化の継承が困難になった。
- ③ 昭和戦後になって初めて、それまでたとえ趣味的であっても否定され続けてきた江戸評価・江戸理解の見直しが行われた。
- ④ 平成の江戸理解は、情報科学の発展によって明らかになった歴史上の欠陥を修正することから始まった。
- ⑤ 平成に入ると江戸と近代の同質性を探り、その本質的な共通点を高く評価するという江戸理解が行われた。
- ⑥ 江戸観が最も大きく転換するのは平成を迎えてからであり、江戸と近代の本質的な違いが正に評価されるようになった。

問9 傍線部E「板本は元禄十五年そのもの」の説明として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は 15。

- ① 元禄十五年に近代活版印刷の技法を以て出版された板本は、まぎれもない江戸時代そのものを示す遺物であるということ。
- ② 元禄十五年に手漉きの和紙に手書きで写された板本は、まぎれもない江戸時代そのものを示す遺物であるということ。
- ③ 元禄十五年に木版印刷の技法を以て出版された板本は、まぎれもない江戸時代そのものを示す遺物であるということ。
- ④ 板本に書かれた内容は出版年によって異なるため、『奥の細道』では最善の本文を有する元禄十五年刊行本を重視すべきだということ。
- ⑤ 『奥の細道』の場合、元禄十五年刊行の板本と現代の活字本とは本文が変わらないため、より古い板本を重視すべきだということ。
- ⑥ 元禄十五年刊行の板本はその当時の口語表現で記されており、当時の文化を理解するには最適な遺物であるということ。

問10 傍線部F「複眼的な江戸理解」の説明として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は 16。

- ① 江戸時代の文学作品は、作品内容の理解と、板本に関する書誌学的知識をもって初めて理解できるということ。
- ② 江戸時代の文学作品は、江戸時代刊行の板本と昭和の活字本との二種類を読んで初めて理解できるということ。
- ③ 江戸時代の文学作品は、江戸時代刊行の板本と電子情報で公開されている内容を把握して初めて理解できるということ。
- ④ 板本は江戸を江戸に即して理解することを可能にするため、個人の偏った読みではなく、複数の読みの可能性を提示するということ。
- ⑤ 江戸時代を近代側から眺めるとともに、江戸を江戸に即して理解したうえで、江戸と近代の同質性を正当に評価すること。
- ⑥ 江戸時代を近代側から眺めるだけでなく、江戸を江戸に即して理解したうえで、江戸と近代の本質的な違いを正当に評価すること。

問11 空欄

甲

に入る小見出しとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は

17

- ① 近代主義的な江戸理解を
- ② 江戸に即した江戸理解を
- ③ 近代の終焉期にみる江戸観
- ④ 近代の青年期にみる江戸観
- ⑤ 昭和の江戸理解の目覚め
- ⑥ 平成の江戸理解の欠陥と反省

問12

空欄

乙

に入る小見出しとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は

18

- ① 鍵は近代主義の成熟
- ② 鍵は江戸の生活文化
- ③ 鍵は内容の正しい理解
- ④ 鍵は和本の正確な理解
- ⑤ 鍵は江戸の歴史の理解
- ⑥ 鍵は電子情報との融合

問13

本文の内容に合致するものを、次の①～⑧のうちから一つ選べ。解答番号は

19。

- ① 平成になり、ポスト近代の方途を探ることが説かれ始め、複眼的・立体的に江戸をとらえる近代主義的江戸理解が広まった。
- ② 昭和の江戸ブームでは、変体仮名や漢字の草書体の見直しが図られ、神保町の古書店街も本好きで賑わっていた。
- ③ 和本は江戸時代の特定の階級にしか流布しなかったものであり、江戸の人間の生活文化すべてを理解するためには不十分なものである。
- ④ 近代人は書物の理解に際し、内容理解を重視しているが、和本が江戸時代の遺物となった以上、仕方がないことである。
- ⑤ 明治に入ってから、和本の姿をとるものは消滅してしまい、現在は活版印刷による書籍しか存在していない。
- ⑥ 平成の江戸理解の方法は、それ以前と異なり、江戸の総体を過不足なく眺めてみようとする姿勢に大きく転換した。
- ⑦ 活字本や電子情報から江戸の作品を理解する際には、和本のすべてを理解したうえでそれらを利用することが推奨される。
- ⑧ 活字本や電子情報から得られる内容は、和本がもたらす量にとっくい及ばないため、和本の文化の継承と発展には不必要なものである。

Ⅱ

次の文章を読んで、後の問い（問1～13）に答えよ。（配点 75）

甲

西洋では「錬金術」という、近代化学の萌芽^{ほうが}となった技術において、水銀は格別の存在となり、科学技術の発展を牽引^{けんいん}していく。金ではない素材から金をつくり出す、そんな非科学的な、しかし、現在もどこか人々を幻惑する技術こそ、錬金術である。サギ^aのような、あるいは魔術のような技術「錬金術」が、近代化学の黎明期^{れいめい}に中心的な役割を担ったことは論^Bをまたない。水銀はそのなかで、きわめて重要な役割を果たした。

錬金術の歴史は古く、その分布もヨーロッパにとどまらず中東、インド、中国と、多くの文明の分布と一致する。最古の錬金術師の存在は、紀元前200年ごろの古代エジプトまでさかのぼる。

錬金術師の目的は大きく3つあり、ひとつ目は卑金属（かつては貴金属に對した言葉で、金・銀以外の金属。現在は空気中で容易に酸化される金属の総称）を金にかえる「賢者の石」の入手、2つ目が不老長寿の薬（中国では仙丹、ヨーロッパではエリキサ）の獲得、そして最後が万物を溶かす溶媒「アルカハスト」を手にするのであった。彼らは、金を含めたあらゆる金属は水銀と硫黄、塩の3物質でできていると考え、とくに水銀に特別な意味を見出した。それは、この金属が流動性を有するためであり、水銀こそ金を産みだす別格の存在であると位置付けた。

古代エジプトの錬金術はやがて、ローマ帝国に伝えられる。とくにローマ人は真つ赤な硫化水銀（パーミリオン）を好み、部屋中の壁に赤を塗って装飾した。この時代を代表する博物学者プリニウスは、その著書のなかで、ローマが毎年4トンの水銀を輸入していること、また「水銀は万物の毒」であるが、「金を製錬するのにコウテキ^b」な存在であると書き残している。やがて、ローマ帝国の衰退とともに錬金術も廃れていくが、紀元400年ごろローマから逃れた反体制派のキリスト教徒ネストリウス派にその技術は温存され、新たな天地を見出す。イスラム圏となった中東である。

アラブを代表する錬金術師であるゲベルは、万物を火と土、水、空気の4元素からなるとし、その組み合わせで水銀と硫黄ができるとした。そして、特別な流動性金属「水銀」こそ、すべての金属を産みだす第五元素とした。もう1人のアラブを代表する錬金術師ラゼス（アツ・ラーズィー）は、世界ではじめてアルコールを消毒剤に使った人物だが、はやくも金属水銀を下剤、つまり薬として用い、昇汞^{しょうこう}（塩化水銀）を疥癬^{かいせん}の治療に用いている。

同時期にはインドでも錬金術が盛んになり、ここでももっぱら水銀が他の物質とどのような化学反応を示すかに注目が集まった。そのなかで水銀は神酒「ネクター（英語読みでネクター）」に変わると不死の薬になるとされ、現在もこの地や中国には、水銀を使用した民間薬が伝わっている。

中国では、陰陽で世界を説明する陰陽五行説が独自に生まれたが、その要素のひとつとして水銀が使われた。つまり世界は、ジュヨウ^cするものとしての陰と、そこへ働きかける陽の存在で構成されるととらえられた。陰としては大地や月、女性、そして水銀が、陽としては太陽や男性、そして陰の物質である水銀に対して硫黄があてられた。中国でもアラブの5元素説と類似して、あらゆる金属は水銀と硫黄からなると考えられ、銅や鉄、スズはその混合比^dが異なると生じると考えられた。

10世紀ごろになると、再び欧州で錬金術が息を吹き返す。錬金術師のなかには『神学大全』で名高いトマス・アクィナスや哲学者ロジャー・ベーコンなどの名もみえる。この時期、錬金術師たちによって王水が発見されている。王水とは、硝酸と塩酸を1対3の比率で混合すると生成される黄色の液体で、他の酸には反応しない金を溶かすことができる。金は王水と反応すると、可溶性の「錯体」塩化金酸となるが、「不変の物質」と信じられていた金が溶けるという発見は、「これで金がつくれる」という夢をサイネン^dさせ、やがて錬金術の黄金期となる16〜17世紀を迎えることになる。

黄金期の著名な錬金術師には「毒性学の父」といわれるパラケルススや、「鉱山学の父」といわれるゲオルク・アグリコラなどがある。兩人とも、他者から錬金術師とみられることを嫌ったという共通の特徴があり、自らの経験と観察から、バラケルススは毒性学の基本となった「用量―応答関係」を残し、アグリコラは冶金技術の集大成とされた『デ・レ・メタリカ』を著すというコウセキ^eを挙げている。

つづいて登場する17〜18世紀の錬金術師には、誰もが知る「近代科学の父」アイザック・ニュートンや「化学の父」ロバート・ボイルなどがある。前者は「万有引力の法則」を、後者は体積と圧力の関係をあらわした「ボイルの法則」を後世に残したが、彼らが錬金術も研究していたことが示すように、本物の科学と似非科学^eの境界は、ときに非常に曖昧となる。後年、ボイルを純粋な「化学の父」とみなしたい化学団体は、ア。しかし、実際にはボイルはいくつもの論文で錬金術に触れ、同時に金と水銀の関係を究明している。

また、ニュートンは錬金術の研究に多大な時間を費やしたため、水銀による中毒を起こしていたとも考えられている。

ニュートンは赤い色を好んだとされ、生涯、赤に囲まれていたと望んだ。その結果、おそらく
イ と思われる塗料で部屋を塗り、文字通り水銀化合物に囲まれて生活していたことになる。

また、ニュートンによる錬金術の実験が最高潮を迎えたとされる1693年、正気が疑われる奇行をしばしば繰り返すようになり、自分を批判するライバルに対し異常な憎悪を燃え上がらせている。そうかと思えば、極端に他人との接触を避ける、いわゆる引きこもりや、不眠、消化器系の不調を訴え、被害妄想も悪化した。これらの症状はニュートンの死後、早くから水銀中毒が原因である可能性が指摘され、20世紀になると頭髮から高濃度の水銀（73から200ppm近くまで）が検出されている。

比較的長寿だったニュートンやボイルは水銀で命を落としたわけではなさそうである。しかし、不老長寿を目指した歴代の中国皇帝や、財政難で悩んだイギリス国王などのなかには、水銀中毒で死亡したと考えられるケースも多い。17世紀のイギリス国王チャールズ二世は、化学に深い興味をもち、とくに自ら実験を行った。専用の実験室まで用意したその実験内容は、当時のイギリスの財政難を意識してか、水銀を用いた錬金術そのものであった。水銀中毒の症状が深刻化した国王は、ついに1685年、54歳で死去し、後年、頭髮からは54ppmの水銀が検出されている。

18世紀のイギリスは、1720年にロンドンで起きた南海泡沫事件^{ぼまつま}に代表されるような狂乱の景

気に浮かれたバブル期であったが、このときには「水銀（クイックシルバー）を貴金属にヘンセイ
します」と謳った会社が出現し、巨額のポンドがだまし取られる事件もあった。社会を支える金の
裏に、つねに水銀の存在が見え隠れすることは、この元素の特徴を顕著に浮かび上がらせている。
1810年には、イギリス海軍の船が水銀を運搬中に船内で水銀が漏れ、揮発したことで大量の
中毒者を出した。無機水銀は揮発してガスとなり、肺から吸収される。この場合の毒性は直接口か
ら摂取した場合より深刻となる。このとき、積まれていたブタやニワトリなどの家畜、カナリアな
どの小動物が死に絶え、そして乗員も5名が死亡している。

薬品への利用

水銀は古くからヤッコウも知られていたが、その多くは水銀の毒性を用いた殺菌作用であった。
鉛やヒ素も、衛生状態の劣悪な環境では、

たとえば水銀は16世紀にパラケルススによって梅毒治療薬として用いられ、皮膚病薬や目薬、点鼻
薬、点耳薬、利尿剤や

Ⅱ

としても使用されていた。

しかし、過剰量の摂取で毒性を生じる重金属を、薬として過剰摂取したり誤飲したりすることは、
ときに死に至るケースも引き起こしている。とくに水銀は、20世紀になってもいくつかの「薬」に
塩化水銀を含むものがあつたため、不幸な悲劇を起こした。たとえば、乳幼児の歯がために利用さ
れた含水銀製品は、過剰摂取で多くの子どもたちの命を奪った。このような商品はいまでは少なく
なっているが、2000年代に入ってから有機水銀のエチル態であるチロメサルがワクチンの
Ⅲ として使用され、接種を受けた児童の自閉症発症との関係が疑われている。

（渡邊 泉「重金属のはなし―鉄、水銀、レアメタル」）

※ 問題作成にあたり、本文を一部改変した。

問1 傍線部 a ～ g のカタカナを漢字に直せ。解答は解答用紙の所定欄に読みやすいはつきりした楷書体で書くこと。解答番号は ～ 。

a サギ

b コウテキ

c ジュヨウ

d サイネン

e コウセキ

f ヘンセイ

g ヤツコウ

問2 空欄 ～ に入る語の組み合わせとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は 。

① I ー消毒剤 II ー防腐剤 III ー下剤

② I ー消毒剤 II ー下剤 III ー防腐剤

③ I ー防腐剤 II ー消毒剤 III ー下剤

④ I ー防腐剤 II ー下剤 III ー消毒剤

⑤ I ー下剤 II ー消毒剤 III ー防腐剤

⑥ I ー下剤 II ー防腐剤 III ー消毒剤

問3 空欄 に入るものとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は 。

① 彼が錬金術を信じていた事実に共感する

② 彼が錬金術を信じていた事実に困惑する

③ 彼が錬金術を研究していた事実に敬服する

④ 彼が錬金術を研究していた事実に賛同する

⑤ 彼が錬金術を似非科学とみなした事実に追従する

⑥ 彼が錬金術を似非科学とみなした事実に得心する

問4 空欄

イ

に入るものとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちから

一つ選べ。解答番号は 29。

- ① 王水
- ② 賢者の石
- ③ エリキサ
- ④ アルコール
- ⑤ バーミリオン
- ⑥ アルカヘスト

問5

傍線部 A 「水銀は格別の存在となり」の理由として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は 30。

- ① 流動性を有するため
- ② 科学技術の発展を牽引していくため
- ③ 近代化学の黎明期に中心的な役割を担ったため
- ④ 歴史は古く、その分布も多くの文明の分布と一致するため
- ⑤ あらゆる金属は水銀と硫黄、塩の3物質でできているため
- ⑥ 非科学的な、しかし、現在もどこか人々を幻惑する技術であるため

問6

傍線部 B 「論をまたない」の説明として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は 31。

- ① 論じるまでもない
- ② 論じることはできない
- ③ 論じる言葉が見つからない
- ④ 論じる理由が明らかではない
- ⑤ 議論する根拠を与えてはならない
- ⑥ 議論するまたとない機会となっている

問7 傍線部C「新たな天地を見出す」の説明として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は 32。

- ① アラブ世界が錬金術師活躍の舞台になること
- ② ローマが毎年4トンの水銀を輸入していること
- ③ 古代エジプトの錬金術がローマ帝国に伝えられたこと
- ④ キリスト教徒ネストリウス派にその技術が温存されたこと
- ⑤ インドで水銀の変化した神酒が不死の薬になるとされたこと
- ⑥ 中国で世界を説明するための陰陽五行説が独自に生まれたこと

問8 傍線部D「その混合比」の説明として最も適当なものを、次の①～⑦のうちから一つ選べ。解答番号は 33。

- ① 陰と陽の混合比
- ② 硝酸と塩酸の混合比
- ③ 水銀と硫黄の混合比
- ④ 銅と鉄とスズの混合比
- ⑤ 水銀と硫黄と塩の混合比
- ⑥ 卑金属と貴金属の混合比
- ⑦ 火と土と水と空気の混合比

問9 傍線部E「本物の科学と似非科学の境界は、ときに非常に曖昧となる」の例示として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は 34。

- ① ニュートンとボイルがともに錬金術を研究していたことは、「万有引力の法則」が本物の科学であり、「ボイルの法則」が似非科学であるとの区別を難しくしている。
- ② ニュートンとボイルがともに錬金術を研究していたことは、「万有引力の法則」が本物の科学であり、「ボイルの法則」が似非科学であるとの区別を無意味にしている。
- ③ ニュートンとボイルがともに錬金術を研究していたことは、「万有引力の法則」と「ボイルの法則」がいずれも本物の科学であるとの認識に疑義を投げかけている。
- ④ ニュートンとボイルがともに錬金術を研究していたことは、「万有引力の法則」と「ボイルの法則」がいずれも似非科学であるとの認識に疑義を投げかけている。
- ⑤ ニュートンとボイルがともに錬金術を研究していたことは、本物の科学と似非科学とを完全に分けることの難しさを示している。
- ⑥ ニュートンとボイルがともに錬金術を研究していたことは、本物の科学と似非科学とを完全に分ける必要がないことを示している。

問10 傍線部F「当時のイギリスの財政難を意識してか、水銀を用いた錬金術そのものであった」の説明として最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。解答番号は 35。

- ① 財政難であったため幅広い研究テーマは制限されたと推測される
- ② 財政難であったため自ら実験を行わざるを得なかったと推測される
- ③ 財政難であったため専用の実験室を拡張できなかったと推測される
- ④ 財政難であったため金をつくって財政を立て直したかったと推測される
- ⑤ 財政難であったため化学に深い興味をもっていたことを秘匿したと推測される
- ⑥ 財政難であったため水銀中毒を顧みる余裕がなく症状が深刻化したと推測される

問11 空欄 甲 に入る小見出しとして最も適当なものを、次の①～⑥のうち

から一つ選べ。解答番号は 36。

- ① 錬金術師の目的
- ② 水銀と硫黄の組成
- ③ 科学としての錬金術
- ④ 錬金術を支えた思想家
- ⑤ 錬金術と「液体の金属」
- ⑥ 近代科学における錬金術の位置

問12 空欄 乙 に入る小見出しとして最も適当なものを、次の①～⑥のうち

から一つ選べ。解答番号は 37。

- ① 錬金術の黄金期
- ② 王水発見の影響
- ③ 錬金術と関連諸学
- ④ 科学と似非科学の境界
- ⑤ 錬金術師と水銀中毒の症例
- ⑥ 水銀の揮発による中毒の深刻化

問13

本文の内容に合致するものを、次の①～⑨のうちから二つ選べ。ただし、解答の順序は問わない。解答番号は

38

39

- ① 金ではない素材から金をつくり出す錬金術は非科学的な魔術のような技術であり、近代化学の黎明期に水銀を特別な存在と位置づけることで人々を幻惑したため、科学技術の発展を阻害する結果となった。
- ② 毒性を知らながら毎年4トンもの水銀を古代ローマが輸入していたのは、その有用性をローマ人が認識していたからであり、その認識に異を唱えて追放されたキリスト教徒ネストリウス派は新たな技術を中東に伝えた。
- ③ ニュートンは錬金術の研究に多大な時間を費やす中、「万有引力の法則」に批判的なライバルに異常な憎悪を燃え上がらせる一方で、引きこもりや不眠となり、被害妄想も悪化するなど、水銀中毒とみられる症状を示していた。
- ④ 古代中国では陰陽で世界を説明する陰陽五行説のひとつの要素に水銀が使われ、水銀は陽の存在である太陽や男性に、また、水銀に対する硫黄は陰の物質である月や女性と同列に配当されて世界の構成が説明された。
- ⑤ アラブを代表する錬金術師ゲベルは火と土、水、空気の4元素に水銀を加えて、万物を5元素として捉え、一方、錬金術師ラゼスは水銀をはじめアルコールつまり下剤として治療に用いていた。
- ⑥ 古代インドでも錬金術が盛んになり、もっぱら水銀と他の物質との化学反応に注目が集まるなかで、神酒が水銀に変わると不死の薬になるとされ、その後の伝統的な民間薬の製法につながっていった。
- ⑦ 南海泡沫事件に代表される狂乱のバブル期にあったイギリスでは、水銀を利用して巨額のポンドをだまし取る事件も起こっており、このことは水銀と金が歴史的に密接な関係をもっている事実を示している。
- ⑧ 王水は他の酸に反応しない金を溶かすことができる液体で、この液体の発見は錬金術師の夢に今一度息を吹き込むこととなり、やがて16～17世紀にはついに黄金をつくり出す技術の完成期を迎えることになる。
- ⑨ 20世紀になっても塩化水銀を含む「薬」が不幸な悲劇を起こし、2000年代に入っても有機水銀を含むチロメサルがワクチンに使用され、その接種を受けた児童の自閉症発症との因果関係が疑われている。